

誰もが暮らしやすく 活力と賑わいあふれる中心市街地
～ 宇都宮らしい愉しさと まちの風格をそなえた街なかへ ～

うつのみや **街なか** 活性化プラン

[概要版]



第2期宇都宮市中心市街地活性化基本計画

平成27年3月

宇都宮市



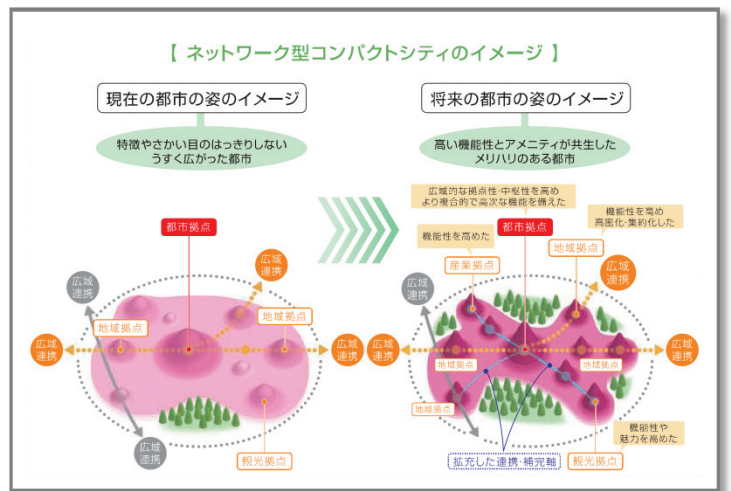
1 計画策定の背景

宇都宮市では、平成14年度に「宇都宮市都心部グランドデザイン」を策定し、長期的な視点のもと中心市街地の活性化に向けた取組を進めています。

平成19年度には、第5次総合計画において「ネットワーク型コンパクトシティ」を将来の都市構造として掲げ、「都市拠点」の形成方針を示すとともに、平成26年度には「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」において、中心市街地（都心部グランドデザインにおける都心部の範囲）は本市全体の活力をけん引する高次の都市機能を高度に集積する「都市拠点」として位置づけています。

このような中、平成21年度に策定した第1期宇都宮市中心市街地活性化基本計画（以下「第1期計画」という。）のもと、衰退する中心市街地の賑わい回復に向けて、「交流人口」と「居住人口」の増加、中心商業地の再生などに取り組んできました。

第1期計画に続き、第2期宇都宮市中心市街地活性化基本計画（以下「第2期計画」という。）を策定し、総合的に事業を展開していきます。



2 計画の期間と区域

■ 期 間 平成27年4月～平成32年3月

■ 区 域 JR宇都宮駅周辺および東武宇都宮駅周辺を含む区域 約168ha

※上位計画である「都心部グランドデザイン」で位置づけた都心部及び「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」における都市拠点（約320ha）のうち、5年間に重点的に活性化に取り組む区域を計画区域として設定（第1期計画区域を継続）





1 第1期計画の概要

- 期 間 平成22年4月～平成27年3月
- 目 標 目標① 商業地が様々な顔を持つ賑わいのあるまち
 目標② 様々な人々が行き交うまち
 目標③ 便利で快適な住みたいまち

2 取組の進捗・目標達成状況

■進捗状況

分 類	全体	完了	実施中	休止
市街地の整備改善のための事業	8	3	5	0
都市福祉施設を整備する事業	3	0	3	0
居住環境の向上のための事業	4	2	2	0
商業の活性化のための事業	13	2	11	0
公共交通機関の利便性増進のための事業、その他一体的な推進のための事業	11	0	9	2
	39 ※再掲2	7 ※再掲2	30	2

■目標達成状況

目標	目標指標	基準値	実績値(最新値)	目標値
目標①	事業所数	2,794 事業所 (H18)	2,548 事業所 (H24)	2,811 事業所 (H26)
目標②	歩行者・自転車通行量(休日)【10地点】	46,987人 (H21)	53,605人 (H25)	49,300人 (H26)
目標③	居住人口(夜間人口)	7,966人 (H21)	7,952人 (H26)	8,700人 (H26)

■まとめ

- ・ 現行計画に掲げた事業はほぼ計画通り実施しました。
- ・ 空き店舗対策や多様な主体による活性化への取組の活発化により、休日の通行量は増加するなど賑わいは回復傾向にあります。一方、平日の通行量は伸び悩んでいます。
- ・ 市街地再開発事業や都心居住策等により居住人口は一時増加しましたが、近年は減少しています。
- ・ 事業所数や従業員数、小売販売額の減少など経済活力指標が総じて低下しています。

3 第1期計画の主な事業

■市街地再開発事業



馬場通り西地区、宇都宮駅西口第四B地区において事業を実施し、都心居住と業務機能強化を推進しました。

■アンテナショップ「宮カフェ」



市民を始め、本市へ訪れる人に、宇都宮の豊かな資源や魅力を知ってもらうためのアンテナショップを開設し、賑わい創出を推進しました。

■大型映像装置を活用した賑わい創出事業



交流拠点であるオリオンスクエアにおいて大型映像装置を設置し、イベント時の活用や商店街・行政等の情報発信により、賑わい創出を推進しました。

■若年夫婦世帯家賃補助



中心市街地に転入する若年夫婦世帯を対象にした家賃補助制度により、中心市街地への居住を推進しました。



1 都市機能・土地利用の状況

■都市機能

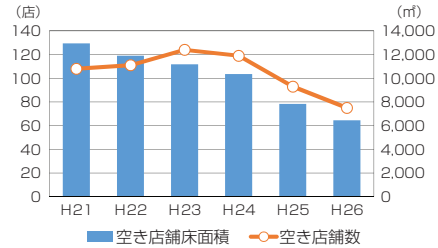
・中心市街地は、商業・業務・医療・公共施設等の都市機能が一定程度集積しています。

■低・未利用地

・中心市街地では、小規模な駐車場等の低・未利用地が点在しています。

■空き店舗

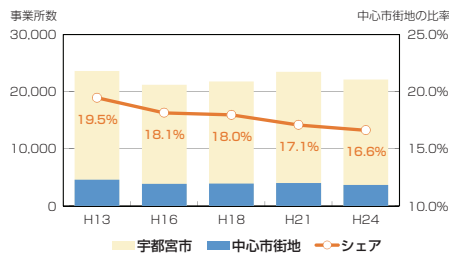
・中心市街地の空き店舗数は平成24年から減少に転じ、空き店舗の床面積も減少しています。



2 産業・商業の状況

■事業所数

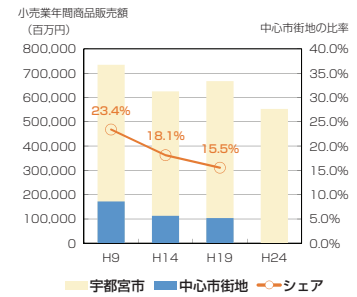
・中心市街地の事業所数は減少傾向にあり、宇都宮市全体に占める割合も下がっています。



■小売業年間商品販売額

・中心市街地の小売業年間商品販売額は減少傾向にあり、宇都宮市全体に占める割合も下がっています。

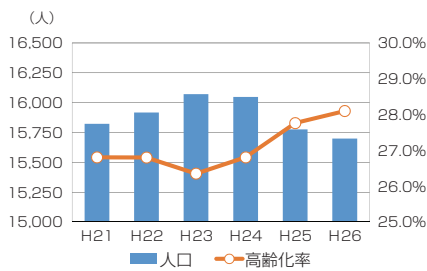
※国の商業関連の統計調査方法が変わり、参考値として平成24年度の市全体の公表値を示す。



3 居住者・来街者の状況

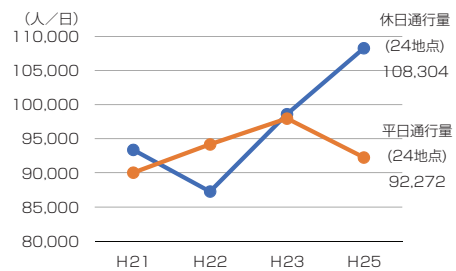
■中心市街地の居住人口

・中心市街地の居住人口は平成24年に減少に転じ、高齢化も進行しています。



■歩行者・自転車通行量

・中心市街地の休日通行量は増加している一方で、平日通行量は伸び悩んでいます。



4 市民アンケートの結果(平成25年度)

■中心市街地の印象

・「愛着がある」、「行きやすい」、「楽しい」という印象の割合は、全て5年前と比べて増加し、「愛着がある」と思う割合は5割を超えましたが、「賑わっている」と思う割合は3割以下にとどまっています。

印象	H20	H25	増減
愛着がある	50.0%	55.7%	+5.7Pt
行きやすい	34.2%	42.7%	+8.5Pt
楽しい	22.2%	30.2%	+8.0Pt
賑わっている	20.3%	24.5%	+4.2Pt

■中心市街地が目指すべきまち

・「日常生活が便利な、暮らしやすいまち」、「買い物を楽しむことができるまち」、「歩いて楽しい歩行者中心のまち」といったニーズが高まっています。

中心市街地が目指すべきまち (上位5つ)	割合
日常生活が便利な、暮らしやすいまち	38.2%
買い物を楽しむことができるまち	36.3%
歩いて楽しい歩行者中心のまち	34.2%
年間を通してイベントやお祭りがあるにぎわいのあるまち	33.9%
県内外の人・もの・情報が交流する拠点となるまち	25.6%



1 第2期計画の特徴

■都市拠点の形成と地域経済の活性化

都市拠点にふさわしい機能の集積・誘導など「賑わいの基盤・環境づくり」を行うとともに、賑わい創出・地域経済活動の主役である民間による創意工夫を活かした取組を推進します。

特徴
1

「都市拠点」づくりに向けた都市機能集積の推進

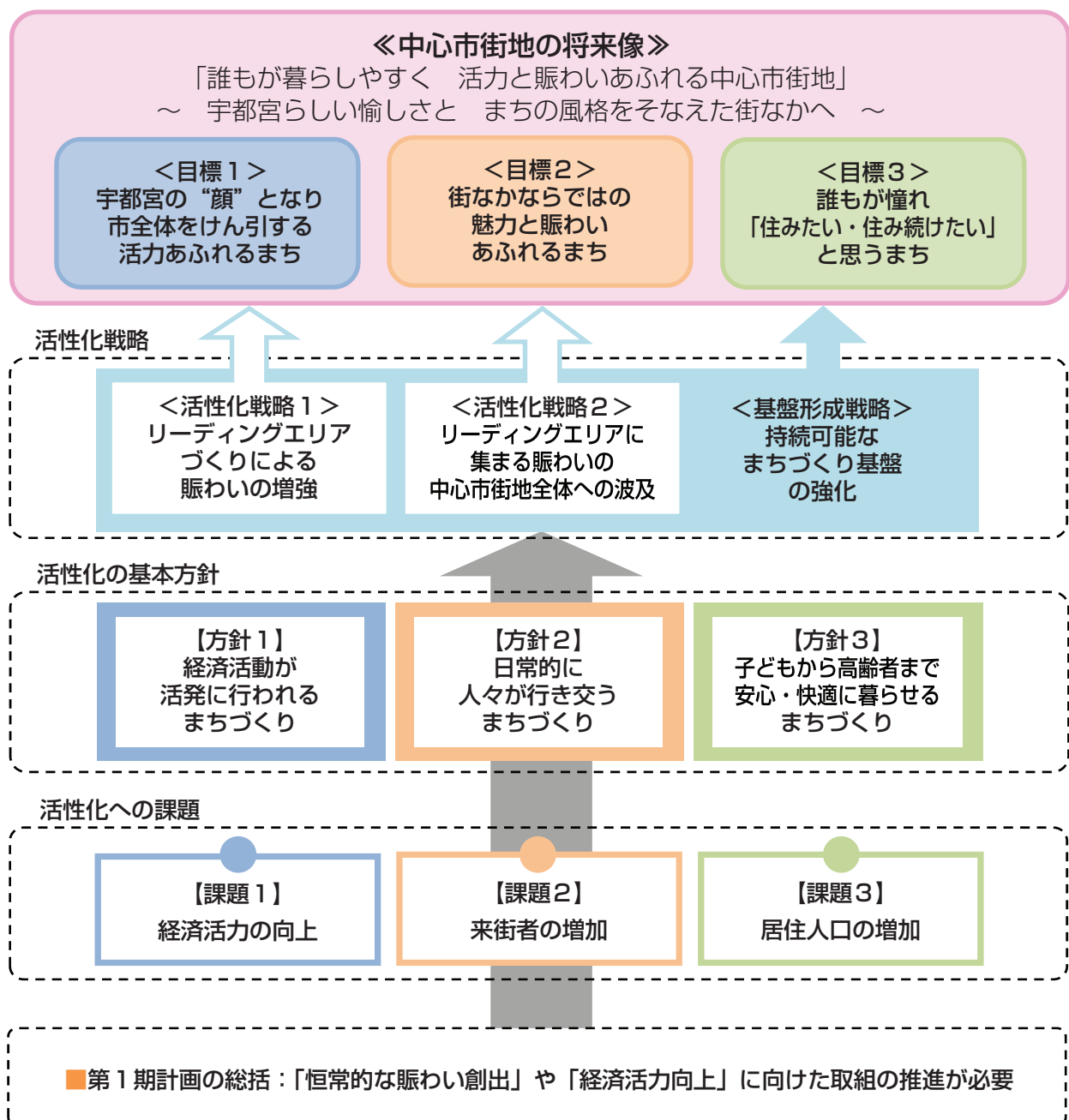
- ・長期的な視点に立ち、ネットワーク型コンパクトシティの中核となる「都市拠点」としてふさわしい高次の都市機能の集積や、公共交通ネットワークの構築に向けた施策・事業に取り組みます。

特徴
2

経済活性化等に向けた民間主体の取組の積極的な推進

- ・民間が主体となった取組については、計画期間内に事業化等を目指すものなどについても幅広く計画に盛り込み、積極的に推進します。

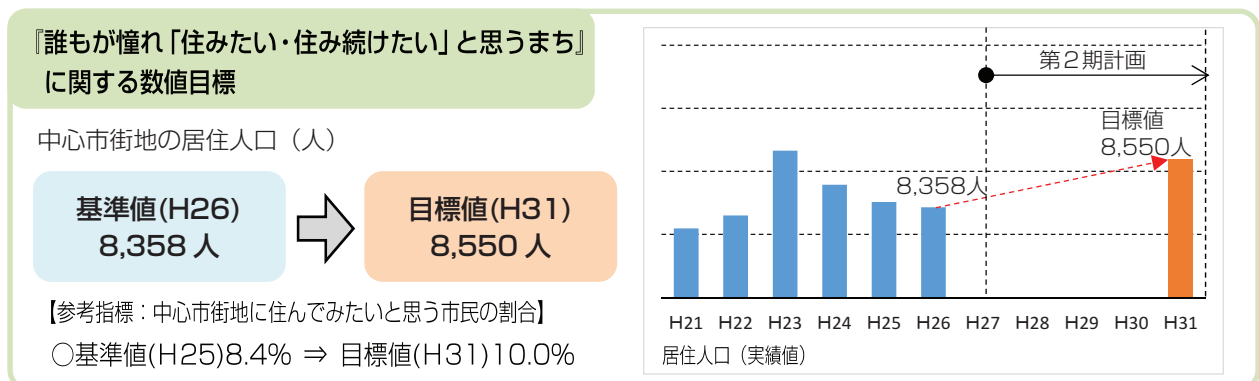
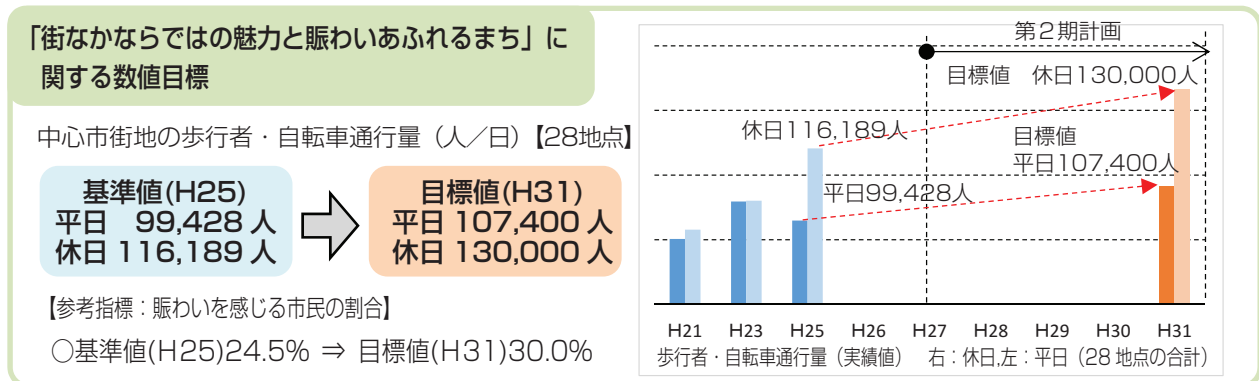
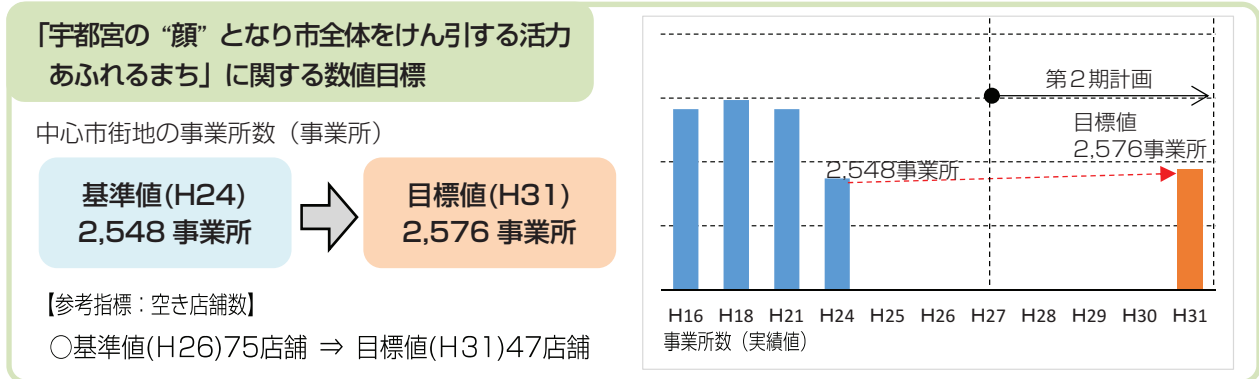
2 第2期計画における将来像・活性化戦略・活性化の基本方針





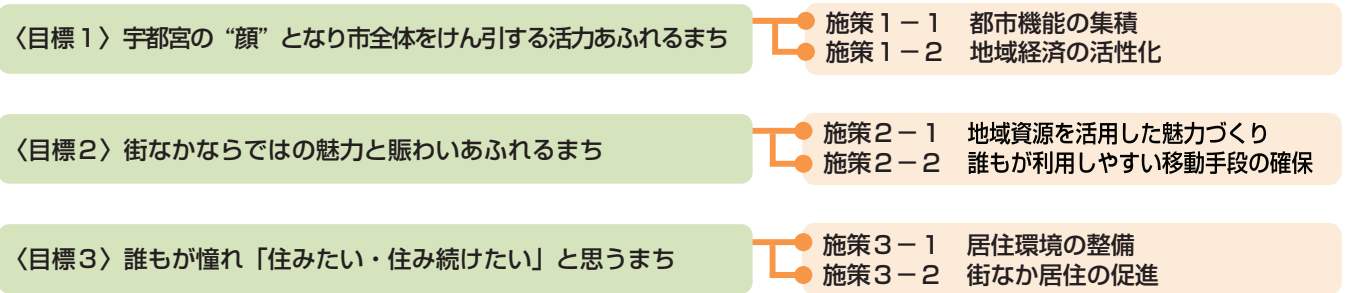
1 目標指標

第2期計画の将来像である「誰もが暮らしやすく活力と賑わいあふれる中心市街地」の実現を目指し、3つの目標と目標指標を設定します。また、各目標指標を補完する参考指標も設定します。



2 施策体系

第2期計画では3つの目標を実現するために、目標ごとに2つの施策を掲げ、その下に各事業を位置づけています。（各事業は次ページを参照）





1 事業実施箇所



17, 38 魅力ある景観づくり事業 (釜川周辺地区)
18 釜川整備活用事業



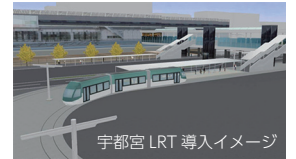
3, 37 宇都宮大手地区市街地再開発事業



28 中心市街地活性化ソフト事業 (宇都宮餃子祭り)



29 冬の夜間景観賑わい創出事業



32 LRTの導入



【*】は重点事業です

施策1-1 都市機能の集積

- 1 JR宇都宮駅西口周辺地区の整備*
- 2 JR宇都宮駅東口地区整備事業*
- 3 宇都宮大手地区市街地再開発事業*
- 4 小幡・清住土地区画整理事業
- 5 スマートエネルギーcityの構築

施策1-2 地域経済の活性化

- 6 中心商業地出店等促進事業*
- 7 魅力ある商店街等支援事業*
- 8 ガンバルまちなか活性化支援事業*
- 9 拠点広場を活用した賑わい創出事業
- 10 宇都宮アンテナショップ「宮カフェ」運営事業
- 11 オリオン通り商店街振興組合未来創生事業
- 12 ユニオン通り商店街商業活性化事業
- 13 商店街次世代経営者育成事業*
- 14 まちづくり担い手育成事業
- 15 インキュベーション事業
- 16 公衆無線LANシステム構築事業

施策2-1 地域資源を活用した魅力づくり

- 17 魅力ある景観づくり事業*
- 18 釜川整備活用事業
- 19 公共空間を活用した賑わい創出事業*
- 20 中心市街地緑の回遊事業
- 21 歴史・文化財活用推進事業
- 22 中心市街地における文化振興事業
- 23 大谷石蔵等歴史的建造物保存・活用事業
- 24 民間による大谷石蔵活用事業
- 25 地域教育推進事業
- 26 「おもてなし運動」推進事業
- 27 もったいない運動の推進
- 28 中心市街地活性化ソフト事業
- 29 冬の夜間景観賑わい創出事業
- 30 「自転車のまち宇都宮」発信事業
- 31 観光情報発信強化事業 (観光情報A Rアプリ)

施策2-2 誰もが利用しやすい移動手段の確保

- 32 LRTの導入*
- 33 バス路線の新設・拡充
- 34 公共交通利用促進事業*
- 35 自転車利用・活用促進事業

施策3-1 居住環境の整備

- 36 小幡・清住土地区画整理事業 (再掲)
- 37 宇都宮大手地区市街地再開発事業 (再掲)*
- 38 魅力ある景観づくり事業 (再掲)*
- 39 都心部道路景観整備事業 (市道3号線)*
- 40 ガンバルまちなか活性化支援事業 (再掲)*
- 41 地域優良賃貸住宅建設費上乗せ補助
- 42 地域教育推進事業 (再掲)
- 43 安全で快適なまちづくり推進事業

施策3-2 街なか居住の促進

- 44 若年夫婦・子育て世帯家賃補助*
- 45 住宅取得支援事業補助*
- 46 街なか暮らし魅力発信事業

上記46事業 (再掲5事業)のうち「①目標指標の達成に貢献度の高いもの」、「②市民ニーズにおいて重要度が高く満足度が低い (重点化が必要なもの)」という視点から中心市街地への波及が高い17事業 (再掲3事業)を重点事業として設定し、事業の進捗状況や評価を基本に、着実な実施に向けて進行管理していきます。

2 計画期間内に事業化を目指すもの

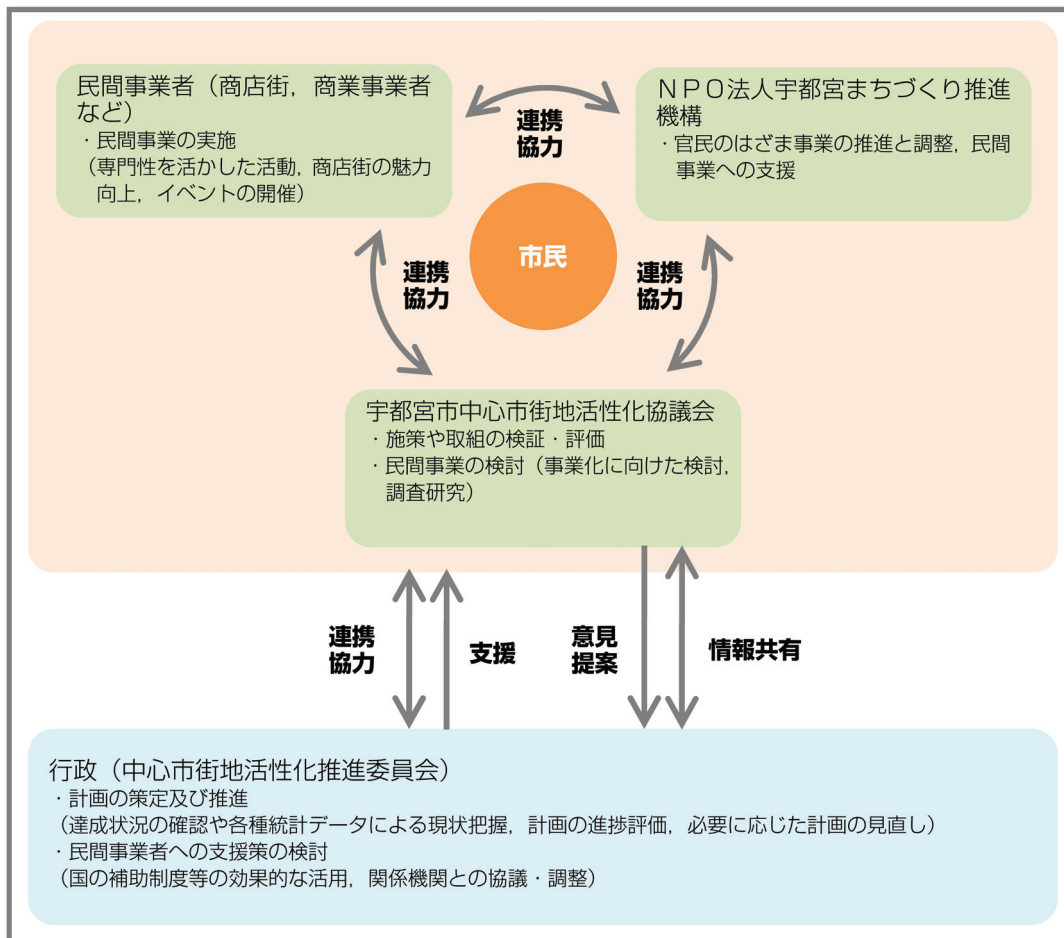
前ページの事業に加え、現在検討段階ではありますが、長期的な視点に立ち、「都市拠点」としてふさわしい高次の都市機能の集積を図る施策や経済活性化等に向け民間が主体となった取組について、「計画期間内に事業化を目指すもの」として位置づけ、積極的に推進します。

- ・立地適正化計画による都市機能の誘導
- ・公共機能の再配置
- ・低・未利用地の利活用事業
- ・LRTのJR宇都宮駅西側導入を見据えた街なか活性化事業
- ・空き店舗等の活用促進事業
- ・快適な自転車利用空間整備事業
- ・生活支援サービス提供事業
- ・プロスポーツと連携した商店街活性化事業
- ・街なか活動ポイント制度事業
- ・アートによる賑わい創出事業
- ・宇都宮ふびす市事業
- ・愉快的な街の得するゼミナール教室事業
- ・中心市街地活性化策提案事業

3 推進体制

第2期計画で位置づけた事業は、行政や、商店街をはじめとする民間事業者が担う事業から構成されています。各事業は、下図で示すように、民間事業者、NPO法人宇都宮まちづくり推進機構、宇都宮市中心市街地活性化協議会等との連携・協力のもと推進します。

また、毎年度、事業の進捗確認を行い、その状況を踏まえた事業の改善や新たな提案を行います。



■お問い合わせ先 宇都宮市 総合政策部 地域政策室
〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1丁目1番5号
TEL: 028-632-2109 E-mail: u2010@city.utsunomiya.tochigi.jp